

12月16日、政策秘書課職員との話です。

「子どもに大切なものは？」を共有しよう

最近、殺人事件の動機で、「殺してみたかった」という理由を報道等で耳にします。どうしてこんな理由で人を殺すことができるのか、私を含め、多くの方が理解できないと思います。

ゲームオーバーとなっても、リセットできるゲーム感覚で、生命の大切さが分からないのでしょうか。何でも自分の思うようにしないと気が済まないのでしょうか。

私たち大人が、子どもを取り巻く環境について考えるとき、例えば、「殺してみたかった」という動機を切り口に、「なぜだろう？」「どうしてこんなことが起きてしまうのか？」と互いに意見をぶつけることが必要ではないのでしょうか？ そうした一つ一つの「なぜだろう？」から、今、子どもにとって大切なものは何かを共有したいのです。

大人こそ実体験を

今日、私たちは、テレビやネットで得た情報で、何でも見た気、経験した気になっているように感じます。例えば、子ども達が木登りをしようとしたとき、大人たちは、登る前から「危ないからダメ」と注意していないのでしょうか。

それでは子どもたちは、何も体験できません。もしかすると、注意する側の大人も、木登りを経験したことがないのに、頭で「危ない」と考えて注意しているのかもしれない。

テストで、「古池や 蛙飛び込む 水の音」の作者が「松尾芭蕉」だと答えられても、子ども達は古池も、蛙も見たことがないかもしれません。

好きな人もいないのに、ラブレターの書き方を教えてもらっても、役に立ちません。何の動機もないのに、学ぶということは、なかなか難しいことです。

自分の子ども時代を振り返ると、学校の授業では先生の実体験の話が面白かった記憶があります。しかし、今は大人でさえ、実体験ができていないと感じます。

私たち大人は、単に本やインターネットから得た知識を子ども達に伝えているだけではないのでしょうか。それでは、単に伝言の配達人に過ぎません。

まず大人がいろいろなことを体験して、それを子ども達に伝えることこそが、

学校生活や生きていくことの面白さを子ども達に教えられる方法の一つではないかと感じています。

～市長の話を聞いて～

今回、3人の職員で市長の話を聞いたのですが、市長から、「子どもを取り巻く環境で、疑問に思うことをそれぞれ言ってみてほしい」と投げかけられたとき、即座には思いつかず、みんな言葉に詰まってしまいました。その後、次のような「なぜ？」が出ました。

- ・大人にはワークライフ・バランスが呼びかけられているのに、なぜ、子どもは学校から帰ってきたあとも、夜遅くまで塾で勉強をしなくてはいけないのか？
- ・子どもの遊び場所が少なくなっている。道路で遊ぶことが良いとは言えないが、大人も「危ないから道路で遊んではダメ」とだけ注意するのではなく、「なぜ、危ないのか、なぜ、ダメなのか」を子どもに伝えているか？

こうした疑問から、何のために勉強させるのか？ 子どもの健康は大丈夫か？ 子どもの幸せにつながるのか？ 子どもの幸せってなんだ？ と広がっていくことを感じました。